

「西之表市立現和小学校の田之脇棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

西之表市立現和小学校

2 学年・人数

5・6年生（計22人）

3 日時・場所

（1）練習の日時・場所

平成28年9月5日～9月16日 現和小学校体育館，校庭

（2）発表の日時・場所

平成28年9月18日（日） 現和小学校秋季大運動会

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事や史跡について

（1）名称

田之脇棒踊り（たのわきぼうおどり）

（2）由来

1885（明治18）年に山川から同市岳之田部落に松木甚助氏他5名の方々が移住されたとき，郷土山川の棒踊りを岳之田で披露したのがはじまりと言われる。勇壮なスピードある踊りは他の棒踊りの群を抜くと言われ，その後，縁故関係にある現和下之町部落，さらには田之脇部落の雄志達がこれぞ誠の田之脇の伝承芸能にと指導を受け踊り，今日に至ったと言われている。

（3）構成等

6人1組で，陣形を変えながら2人が六尺，4人が三尺の長い棒を打ち合う力のこもった演舞。唄は7番まであり，同じ動きを繰り返す。衣装は，浴衣に襷をかける。六尺と三尺の棒を持つ踊り手の襷の色は違う。また，三尺の棒を持つ踊り手の右と左の綱の向きが違う。

5 保存会や地域との連携の具体

現和小学校の運動会では恒例のプログラムになっていて，毎年5・6年生が，田之脇棒踊り保存会の方々に指導していただき，地域の伝統を引き継いでいる。運動会当日は，保存会の方々数名が会場に来てくださり，生唄で子供たちの棒踊りが披露される。

また，校区内にある知的障害者更生施設たちばな園の運動会にも運営スタッフとして毎年5・6年生がボランティアで参加し，棒踊りを披露している。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携協力しながら棒踊りを継承していくために，まず保存会との連携を密にしている。体育主任を中心に，特に運動会前の事前練習の時間確保に

努め、保存会の方々から子供たちが正確に踊りを教えてもらえるようにしている。

次に、地域担任及び管理職を中心に、田之脇自治会のいろいろな行事に参加して、普段から連携を図るようにしている。

また、学校の運動会やたちばな園運動会、風本神社秋の大祭（隔年）、願成就等の地域行事等で、棒踊りの発表の機会の確保（継続性）に努めている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



田之脇棒踊り保存会の方が来校して教えてくださっている様子



運動会での発表

8 参加児童・保護者・保存会・教職員等の感想・意見

【児童】

- ・ 練習の時、棒踊り保存会の方に丁寧に教えていただいたので、本番でも上手に踊ることができた。大人と練習した時は、動きが速くてびっくりした。
- ・ 郷土芸能をみんなで練習して、間違えずに披露できてよかった。昔からの踊りがこれからもずっと受け継がれていけばいいと思った。踊りや唄の意味を詳しく調べてみたい。

【教職員】

- ・ 保存会の方々を含め、地域の方々の“ぜひ小学生に郷土芸能を引き継いでほしい”という熱意を感じた。
- ・ 1つ1つの動作にも意味があることを考えながら踊ることは、伝統を引き継ぐ上で大切なことであると思った。

【保存会の方から】

- ・ “文化財の伝承”というのは簡単なものではなく、人から人へ、また親から子へというふうに思いを繋ぐリレーのようなものです。棒踊りの独特のリズムは、いつの時も地域の方々へ感動をもたらしています。世代を越えて同じ思いをもって、現和小の子供たちと一緒に伝統芸能を伝えていけることに喜びを感じています。